

科 目	単位(時間)	担 当 者	授業時期
臨床看護技術 I	1 単位 (30 時間)	望月 直美 (臨床経験 19 年)	2 年後期

【学習目標】

- 1 診察・検査の目的と看護師の役割を理解し、それらを受ける対象への看護について学ぶ
- 2 薬物療法・創傷管理について理解し、正確な方法で安全に実施するための技術を学ぶ

【授業の進め方】

講義、演習、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 I. 診療・検査時の看護
- 2 II. 創傷処置を必要とする患者の看護 1. 創傷管理の基礎知識
- 3 2. 創傷処置・包帯法 (演習)
- 4 III. 薬物療法に伴う看護 1. 与薬の基礎知識
- 5 2. 与薬法 (経口・外用・注射) と看護
- 6 3. 直腸内与薬 (演習)
- 7 4. 輸液療法と看護
- 8 IV. 注射法
- 9 演習「注射による与薬方法」 1. 皮下注射 2. 筋肉内注射 (演習)
- 10 //
- 11 V. 検査に伴う看護 1. 採血の基礎知識
- 12 演習「採血」
- 13 //
- 14 VI. 安静療法を必要とする患者の看護 (輸血管理)
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる 2. 臨床看護技術 メディックメディア

【参考書】

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
臨床看護技術Ⅱ	1 単位 (30 時間)	佐藤 理紗 (臨床経験 7 年)	2 年後期

【学習目標】

援助を受ける対象の心理について理解し、安全安楽にニーズを充足するための援助技術を習得することができる

【授業の進め方】

講義、演習、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 講義オリエンテーション 「排泄障害のある患者の看護」
導尿とは ①導尿の種類・目的 ②実施時の留意点 ③感染予防対策
- 2 導尿演習準備
- 3 演習「一時的導尿の援助」
- 4 〃
- 5 持続的導尿時の管理 グループワーク、演習「持続的導尿の管理」
- 6 摘便とは①摘便の方法 ②摘便の注意点
- 7 薬物を伴う排泄援助について ①坐薬 ②浣腸 1) 浣腸の方法 2) 浣腸実施時の注意点
- 8 〃
- 9 坐薬、摘便演習事前学習
- 10 演習 「坐薬の投与」、「摘便」
- 11 〃
- 12 浣腸演習事前学習
- 13 演習「グリセリン浣腸」
- 14 〃
- 15 試験

【教科書】

新体系看護学全書 基礎看護学[4] 臨床看護総論 メヂカルフレンド社
 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 看護がみえる 1. 基礎看護技術 メディックメディア

【参考書】

看護技術に関する参考書

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
看護過程Ⅱ	1 単位 (15 時間)	松沢 士子 (臨床経験 26 年)	2 年前期

【学習目標】

看護過程の構成要素を基に、事例を使い実際に看護を展開する実践能力を身につける。

【授業の進め方】

講義、個人ワーク、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 授業計画の説明、看護過程Ⅰの復習 事例紹介
- 2 アセスメント
- 3 アセスメント (グループワーク)、関連図
- 4 関連図 (グループワーク)、問題リスト
- 5 問題リスト、看護目標、看護計画、発表準備 (グループワーク)
- 6 グループ毎の発表
- 7 アセスメント練習
- 8 SOAP、まとめ、自己評価

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院

【参考書】

看護過程Ⅰ授業の資料
その他必要と思う許可書・参考書

【評価方法】

課題提出期限、課題内容、グループ討議などの授業態度、発表態度の総合評価
課題提出期限 期限超過の場合 - 5点
課題内容 7割以上の記載がない場合 - 5点

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
臨床判断演習	1 単位 (15 時間)	益満 恵美子 (臨床経験 9 年)	2 年後期

【学習目標】

患者の日常生活の様子から重要な情報とは何かに気づくことを学び、解釈・分析する力をつけることができる

【授業の進め方】

講義、グループワーク、個人ワーク

【授業スケジュール】

- 1 臨床判断とは
- 2 気づきトレーニング (症例 1 DVD 視聴)
情報の気づきを言語化する (グループワーク)
- 3 気付いた事柄から分析・解釈する (グループワーク)
- 4 症例 1 からの気づき、分析・解釈の共有
- 5 気づきトレーニング (症例 2 DVD 視聴)
情報の気づきを言語化する (個人ワーク)
- 6 気付いた事柄から分析・解釈する (個人ワーク)
- 7 症例 2 からの気づき、分析・解釈の共有
- 8 試験

【教科書】

学習内容に関連する教科書

【参考書】

学習内容関連書

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
事例演習	1 単位 (30 時間)	ペタス 裕子 (臨床経験 16 年)	2 年全期

【学習目標】

自分の行った看護を文献と照らし合わせて文章としてまとめ、発表することができる。

【授業の進め方】

講義、個人ワーク、発表

【授業スケジュール】

- 1 ナイチンゲール看護論・入門 読み込み・文献ノート作成・グループ発表
- 2 自分の行った看護の掘り起こし
- 3 レポートの書き方・作成 (講義)
- 4 レポート作成
- 5 //
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 //
- 10 //
- 11 //
- 12 発表準備、発表
- 13 //
- 14 //
- 15 振り返り

【教科書】

金井一薫：ナイチンゲール看護論・入門 現代社 2014
 ナイチンゲール：看護覚書 現代社 1968

【参考書】

基礎看護学実習Ⅱ実習記録 等

【評価方法】

レポート (評価基準に基づく、授業中に示す)、授業態度、発表態度の総合評価

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
地域・在宅看護概論	1 単位 (30 時間)	宮本 千絵 (臨床経験 12 年)	2 年前期

【学習目標】

地域における看護師の機能と役割を知り、多職種・多機関連携の必要性を理解する

【授業の進め方】

講義 グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 在宅療養者とその家族を取り巻く現状と背景 DVD 視聴
- 2 地域・在宅看護の変遷と社会背景
- 3 在宅療養環境を考える グループワーク
- 4 "
- 5 "
- 6 "
- 7 発表
- 8 地域包括ケアシステムとは
- 9 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
- 10 地域・在宅看護に関する基本的概念
- 11 地域・在宅看護の対象者
- 12 家族の定義・役割・機能 グループワーク
- 13 家族に関する基礎理論
- 14 地域・在宅看護の倫理
- 15 筆記試験

【教科書】

ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 一地域療養を支えるケアー メディカ出版

【参考書】

適宜、紹介・提示する

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
成人援助論 I	1 単位 (30 時間)	柳澤 拓也 (認定看護師) 若林 賢紀 (病院看護師) 黒岩 翼 (病院看護師) 伊藤 佳孝 (認定看護師)	2 年全期

【学習目標】

脳神経疾患、運動器疾患、消化器疾患の特性と個人の生活に与える影響などを踏まえ、これらの疾患と共にある人々への看護について学ぶ

【授業の進め方】

講義 グループワーク 演習

【授業スケジュール】

- 1 脳神経疾患をもつ患者の特徴と看護の役割、主な症状に対する看護
- 2 脳血管障害と看護 (脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)
- 3 脳血管障害以外の脳神経系疾患患者の看護 (頭部外傷、硬膜下血腫)
※パーキンソン病を除く
- 4 高次脳機能障害について
- 5 演習 意識障害の観察 (GCS、JCS、MMT、瞳孔、腱反射)
- 6 運動器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割、症状・経過に応じた看護
- 7 保存療法を受ける患者の看護 (ギプス、牽引)
- 8 手術療法を受ける患者の看護
- 9 運動器疾患をもつ患者の看護
(脊髄損傷、骨腫瘍、変形性膝・股関節症、椎間板ヘルニア、関節リウマチ、骨折)
※大腿骨頸部・転子部骨折を除く
- 10 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割、治療と検査
膵臓疾患患者の看護 (膵炎)
- 11 肝臓・胆のう疾患患者の看護 (肝炎、肝硬変、胆のう炎、胆石)
- 12 胃疾患患者の看護 (胃がん、胃潰瘍)
- 13 大腸疾患患者の看護 (大腸がん、潰瘍性大腸炎)
- 14 ストーマ造設術を受ける患者の看護 *認定看護師
演習 ストーマサイトマーキング、装具の貼り方、外し方
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
老年援助論 I	1 単位 (30 時間)	峰村 智恵子 (臨床経験 28 年)	2 年前期

【学習目標】

看護の視点で高齢者の特徴（生きる力）を理解し、健康維持・増進について理解する
 高齢者の健康障害の防止と老化による弊害をふまえた日常生活援助の基本を理解する

【授業の進め方】

講義・演習

【授業スケジュール】

- | | | |
|----|----------------|----------------------------|
| 1 | 看護の視点での高齢者の理解 | 高齢者におけるアセスメントとケア |
| 2 | 〃 | 老年症候群・フレイル |
| 3 | 高齢者の生活機能を整える看護 | |
| | ①食事・食生活 | 高齢者における食生活の意義・アセスメント |
| 4 | | 高齢者の特徴的な変調・食生活の支援 |
| 5 | | 口腔ケア・義歯の取り扱い（演習）PEG（デモ） |
| 6 | ②排泄 | 高齢者の排泄ケアの基本 |
| 7 | | 排泄障害のアセスメントとケア |
| 8 | ③清潔 | 高齢者の清潔の意義・特徴的な変調 |
| 9 | | 拘縮のある高齢者の更衣・清潔援助・リネン交換（演習） |
| 10 | | 拘縮のある高齢者の更衣・清潔援助・リネン交換（演習） |
| 11 | ④活動・休息・睡眠 | 高齢者に特徴的な変調・生活リズムを整える看護 |
| 12 | ⑤環境整備（転倒予防） | 高齢者の基本動作と環境のアセスメント |
| 13 | ⑥コミュニケーション | 高齢者とのコミュニケーションの特徴 |
| 14 | | コミュニケーション障害への援助 |
| 15 | 試験 | |

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
老年援助論Ⅱ	1 単位 15 時間	山岸 里美 (認定看護師) 松沢 土子 (臨床経験 26 年)	2 年前期

【学習目標】

- 1 加齢変化により起こりやすい特徴的な症状について、そのアセスメントと看護について理解する
- 2 加齢による認知・身体機能の低下や機能障害から起こる生活上の危険とそれに対する援助について理解する

【授業の進め方】

講義、演習、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 高齢者の特徴的な症状と看護 ①発熱・脱水・浮腫
- 2 ②痒み・スキンケア
- 3 ③痛みのケア、骨粗鬆症
- 4 ④摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 (認定 NS)
- 5 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 (演習)
- 6 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 (演習)
- 7 高齢者のリスクマネジメント 高齢者の生活上の危険に対する援助
(事例グループワーク)
- 8 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
老年援助論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	松沢 士子(臨床経験 26 年) 山岸 明広 (認定看護師) 柴本 幸子 (認定看護師)	2 年後期

【学習目標】

高齢者に特有な健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療等を学び、高齢者及びその家族を対象とした看護を学ぶ

【授業の進め方】

講義、個人・グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 認知症・せん妄
- 2 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 認知症・せん妄
- 3 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 認知症・せん妄
- 4 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 褥瘡
- 5 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 褥瘡
- 6 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 大腿骨頸部骨折
- 7 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 パーキンソン症候群
- 8 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 前立腺肥大症
- 9 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 心不全
- 10 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 グループワーク
- 11 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 グループワーク
- 12 高齢者に特有な疾患・障害及び看護 発表
- 13 高齢者の手術看護・薬物療法
- 14 高齢者の身体徴候のアセスメント
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 老年看護学 病態・疾患論 医学書院

【参考書】

随時適切な資料を提示する

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
小児看護学概論	1 単位 (30 時間)	和田 光子 (臨床経験 12 年)	2 年前期

【学習目標】

様々な健康レベルの子どもが健やかに成長していくために、子どもの権利の尊重・子どもの成長発達を支援し、子どもやその家族にとって最善のケアを提供するための小児看護実践の基礎を学ぶ。

【授業の進め方】

講義、グループ討議

【授業スケジュール】

- 1 小児と家族を取り巻く環境・医療・看護
 - ① 小児看護の変遷、こどもの人権と看護
 - ② 小児看護の対象
 - ③ 小児看護の目標とその役割
- 2 小児の成長と発達
 - ① 成長・発達の原則と影響因子、発達評価
 <自分史・母子手帳などから成長記録>
 - ② 形態的特徴、機能・生理的特徴、身体的機能
 - ③ 感覚機能の発達、言葉の発達、コミュニケーション
 - ④ 情緒の発達、認知発達、心理社会的発達、知的発達
 - ⑤ こどもと遊び
 <絵本の読み聞かせ・トトロ折り紙>
 - ⑥ こどもと事故<チャイルドビジョンによる子どもの視野体験>
 - ⑦ こどもと感染、予防接種
 - ⑧ こどもの栄養と食事 <離乳食>
- 3 小児の健康増進と発達の支援
 - ① 乳児の健康増進と発達の支援
 - ② 幼児の健康増進と発達の支援
 - ③ 学童・思春期の健康増進と発達の支援
 <題材 千と千尋の神隠し>
- 4 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

【参考書】

生涯人間発達論 第2版 医学書院

【評価方法】

筆記試験 (70 点)、授業アウトプット用紙 (20 点)、授業ファイル内容 (10 点)

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
小児援助論 I	1 単位 (30 時間)	小日向 直子(看護師) 佐藤 理紗(臨床経験 7 年)	2 年後期

【学習目標】

病気や入院が小児や家族に与える影響について理解できる。また、病気の主な症状とその看護について理解し、観察の視点や援助方法について学ぶ。

小児の特性を踏まえた看護技術について理解し、安全安楽かつ人権を尊重した小児看護技術の方法を学ぶ。

【授業の進め方】

講義、演習、グループ討議

【授業スケジュール】

- 1 病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護
- 2 小児の病気の理解
- 3 小児看護における倫理
- 4 検査・処置を受ける小児への看護
 - ①インフォームドアセント
 - ②プレパレーション
- 5 小児にみられる主な症状とその看護 症状編：熱性痙攣
- 6 疾患編：川崎病
- 7 嘔吐・下痢のある小児の看護[乳児下痢症・幽門狭窄症]
- 8 脱水のある小児の看護[小児の検査値について]
- 9 呼吸器系に以上のある小児の看護 症状編：クループ
- 10 疾患編：RSウイルス感染症
- 11 小児に必要な看護技術
コミュニケーション技術
- 12 フィジカルアセスメント
- 13 バイタルサイン測定
- 14 治療にともなう小児看護技術について
採血、輸液療法、骨髄穿刺、腰椎穿刺演習
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

【参考書】

小児の主要症状とケア技術 医歯薬出版

【評価方法】

筆記試験 (80 点)、レポート (20 点)

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
母性援助論 I	1 単位 (30 時間)	塚田 裕子 (病院助産師)	2 年後期

【学習目標】

周産期の特徴と正常な経過を理解し、その対象と家族を支える看護を学ぶ

【授業の進め方】

講義、演習

【授業スケジュール】

- 1 妊娠期の身体的特性 胎児の発育と生理
- 2 妊娠に伴う心理・社会的特性
- 3 演習 (妊婦体験・レオポルド触診法・母体計測)
- 4 妊婦と胎児のアセスメント
- 5 妊婦と家族の看護 保健指導・サービス
- 6 分娩の3要素
- 7 分娩の経過 (産婦と胎児のアセスメント含む)
- 8 分娩期の看護 第Ⅰ期・第Ⅱ期
- 9 分娩期の看護 第Ⅲ期・第Ⅳ期
- 10 産褥期の生理的变化 (退行性変化)
- 11 産褥期の生理的变化 (進行性変化
母親へのエモーショナルサポートとエンパワーメント)
- 12 産褥期の生理的变化 (心理・社会的変化)
- 13 産褥期の健康状態のアセスメント
- 14 産褥期の看護 (家族関係の再構築・育児支援)
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

【参考書】

看護がみえる 10. 産科 メディックメディア

【評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート 20%

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
精神看護学概論	1 単位 (30 時間)	ペタス 裕子 (臨床経験 16 年)	2 年前期

【学習目標】

人間の成長発達を理解に基づいて、精神の健康問題を捉える視点を理解し、精神看護の対象の特徴と役割を学ぶ

【授業の進め方】

講義、DVD視聴、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 精神看護学で何を学ぶか
- 2 精神の健康と障害 ①精神の健康とは ②精神障害とは
- 3 人間のこころの働き ①脳の仕組みと精神障害 ②人間のこころの諸活動
- 4 こころの仕組みと人格の発達 ①自我の構造 ②防衛機制 心の危機とストレス
- 5 ケアの人間関係 再構成の方法
- 6 家族とその支援
- 7 精神障害者観 (課題DVD視聴)
- 8 //
- 9 ① グループワーク
- 10 精神医療看護の歴史と現状
- 11 精神科に関する理論家② 発表
- 12 精神科に関する理論家③ 発表
- 13 ケアの人間関係—看護場面の再構成 (講義、演習)
- 14 // 最高性の検討 (演習)
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院

【参考書】

随時資料を提示

【評価方法】

筆記試験、精神障害者観レポートの総合評価

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
精神援助論 I	1 単位 (15 時間)	ペタス 裕子 (臨床経験 16 年)	2 年後期

【学習目標】

精神看護を展開していくうえで重要な対象の捉え方を理解する

【授業の進め方】

講義、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 精神看護の対象の捉え方
- 2 看護実践のための情報の整理①精神状態のアセスメント
- 3 " ②セルフケアのアセスメント
- 4 看護実践に必要な基礎知識の理解①全体像、看護計画（事例：統合失調症急性期）GW
- 5 " ② "
- 6 " ③GW で考えた全体像、看護計画の発表
- 7 " ④ "
- 8 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野 II	精神看護学[1]	—精神看護の基礎—	医学書院
系統看護学講座 専門分野 II	精神看護学[2]	—精神看護の展開—	医学書院

【評価方法】

筆記試験